

【所属名：総務部 財政課】

【会議名：平成30年度第3回行政改革推進委員会】

会 議 録

作成日 平成30年11月21日

日	平成30年11月19日	時間	13:15～14:50	場所	市役所2階 201会議室
件名	(1) 第2回推進委員会の経過報告 (2) 推進項目上半期の取組状況 (3) 平成31年度実施計画（取組項目）の検討について				
出席者	【出席者】 齋藤伸一会長 池田正夫副会長 伊藤秀文 北村雄一 大貫慶一 藤原克朗 早川正明 木島嵩善 長谷川仁基 八木章（10人）				
	【事務局】 総務部 : 藤田部長 財政課 : 大沢課長 嵐口補佐 古平係長 総務課 : 渡辺課長 大西補佐 杉原係長 仲谷係長 渡辺係長				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 議 題

(1)と(2)を一括議題とする。

(1) 第2回推進委員会の経過報告

【説明内容】

事務局（ヒアリングの概要を報告）

はじめに行政全体に係る3つの計画（個別計画）を説明した。

公共施設等総合管理指針

人口減少と財政状況に応じた施設のマネジメントであり、全ての施設を同じように維持するのは困難となることから、本年度末までに、分類ごとの方針を示す個別計画を策定する。

長期財政見通し

平成31年度のごみ処理施設の整備費の影響が大きく、そのままにしておくと実質公債費比率が急上昇して危険水域に近づく。

これを回避する一つの方法として、平成31年度から平成33年度において借入金の繰り上げ償還を行い、将来負担をできるだけ軽減し、できるだけ危険水域に近付かないようにする。

定員適正化計画

職員全体では、平成17年度と比較して、137人の減である。

類似団体との比較分析というのが重要要素の一つだが、昨年度に分類が変わったことから、現在調整中である。

9月26日ヒアリングで質問があった技師の数について
資料No.1を説明。

次に行革実施計画の取組項目についてのヒアリング内容を説明した。

No.1 コンビニ交付システムの導入

稼働は順調だが、次の段階としてマイナンバーカードの利用方法を検討中。

No.2 生活応援アプリの導入

昨年11月からスタートし、順調である。

No.5 図書館窓口業務の民間委託

市の調査では、委託の方が高くなるが、職員の平均給与で試算するなど、今一度整理する。

No.10 嘱託員制度の見直し

3地域で運用の仕方が異なる。

なかなか進まない事情があるが、市が地区に委託する制度に統一していきたいもので、理解いただくよう、取り組んでいる。

No.19 内部監査制度の強化と業務監査の実施

No.20 職員の地域活動への積極的参加

No.21 職員研修による資質向上

} (説明内容省略)

(2) 推進項目上半期の取組状況

【説明内容】

- 事務局 ・平成30年度糸魚川市行政改革推進項目取組状況（上半期）を説明。
・資料No.2 行政改革に関する効果・数値等を説明。この資料は、実施計画の末尾に添付する。

【質疑】

No.7 糸魚川市体育協会の自主運営の強化

No.8 糸魚川市文化協会の自主運営の強化

委員 ・共通事項として、協会の独立を考えたとき、例えば指定管理者を目指すことになるのか。

事務局 ・他の自治体において、協会が独立している場合に、施設の指定管理をセットにしている例がある。

当市は、早急に指定管理に至らないかもしれないが、目標の一つと考えている。

No.19 内部監査制度の強化と業務監査の実施

委員 ・内部監査委員の教育について、どのように考えているか。

また、監査結果などをどのように庁内周知して活かすのか。

事務局 ・内部監査は、庁内22課を対象に実施している。

・内部監査委員は、事前に会議を開催し、全員で情報を共有している。

・是正措置が必要な部署には、まず是正計画書を提出させて改善を求めるが、指摘事項は係長会議を開くなどして情報共有したい。

- ・なお、好事例は庶務担当者会議等で紹介していく。
- ・内部監査委員の教育には時間がかかると思うが、しっかりやっていきたい。

- 委員 ・ノウハウの継承という点で、内部監査委員の任期はどうか。
- 事務局 ・年度ごとの任期としているが、新しい監査委員を育てていかなければならないので、経験者を活用しながら柔軟に対応していきたい。

No.21 職員の地域活動等への積極的参加

- 委員 ・これまでの参加状況は 60%ほどで、目標の 70%に上げるための職員周知や取り組みをどのように行ってきたか。
- 委員 ・職員がなぜ参加するのか、理由を分かってもらい取組みを要望したい。
- 事務局 ・地区が望んでいても、市職員が 3 役等に誰も入っていない地区があると聞く。行政改革の目標としては、役員クラスへの参加を目指していると思うが、それは仕事としてか、個人に任せているのか。
- 事務局 ・地域の環境により状況が異なってくるので、原則を設けていないが、そのようなお話を聞いているので、より一層の参加を周知していきたい。
- 委員 ・なお、近日中に、市役所消防団を発足する予定で、構成は地域の消防団を兼ねる職員としている。
- 委員 ・きっかけの例として、より地域に入って活動していくように指導していきたい。
- 委員 ・本年度の実数として、参加は 55.4%、行事参加は 74.4%とのことであるが、そのように実感できない。
- 事務局 ・参加率の捉え方はどうか、重複は無いか。
- 事務局 ・一人ごとにカウントしているので、重複はない。
- 511 人中 380 人が何らかの行事に参加したという回答であった。

個別計画No.1 糸魚川市子ども・子育て支援事業計

- 委員 ・保育園の民営化について、能生地域はすでに民営化している。
- 事務局 ・非常に難しい問題と捉えているが、本年度行う予定の民営化に触れたアンケートは、どの地域で行っているか。
- 事務局 ・実務が進行中なので詳細を聞いていないが、保護者の意識調査ということ考えると、糸魚川地域と青海地域が中心となる。

9月26日ヒアリングで質問があった技師の数について

- 委員 ・仕事の中身として、設計業務の中で CAD による設計を行っているか。
- 事務局 ・設計は CAD を使用しており、設計及び積算の場面は、準備年度の概略設計、国県査定時の設計、実施時の設計と 3 回ほどある。
- 委員 ・技師が忙しいと聞くが、概要が分からないので判断ができない。
- 事務局 ・例えば、強度計算や構造計算は工事業者任せになるのか、庁内で照査するのかわかるか。
- 事務局 ・通常は庁内職員が行い、建築の構造計算など特殊なものは、設計委託の業務の中で業者が照査することとしている。

- 委員 ・資料では、現場検証を週2～3回行っているとのことだが、これは担当者単位の行動か、1工事当たりの行動か。
- 事務局 ・1工事当たりの回数である。
- 委員 ・発注元責任として、現場の安全管理のほか第三者に対する安全責任が問われる。そのようなことも、技師がしっかり現場を指導しているか確認したい。例えば、現場作業エリアを柵で区切って、第三者の安全を確保することである。
- 事務局 ・技師は、そのような指導も行っている。
・また、近年は夏場の熱中症など、いろんな危険に対して注意を促している。

(3) 平成31年度実施計画（取組項目）の検討について

- 委員 ・No.12 市議会のタブレット端末導入については、目標数値に届くよう継続していただきたい。
・新たな項目としてだが、市が関与する委員会や協議会に内容について、市民が知ろうとした場合に、得たい情報が得られないと感じている。
例えば、市がどのような協議会等に関与していて、それが休止しているか、稼働中なのか分らない場合がある。
整理のうえ、情報としてホームページなどに掲載してはどうか。
外部から見てもらうことで、会議等の削減に繋がるかもしれない。
- 事務局 ・No.12 市議会のタブレット端末導入については、継続することとしたい。
・市が関与する委員会や協議会は、確かに一覧にすると分かりやすいので、整理したい。
- 委員 ・No.10 嘱託員制度見直しは、行政区と公民館が一体化している能生地区が取り組みやすい。
早いうちに地元と協議してほしい。
- その他 ・平成31年度用の資料No.3について、委員から意見をいただき、正副会長と事務局が整理することとした。

4 その他

(1) 第4回委員会

- ・第4回委員会を平成31年2月下旬に開催することとした

5 閉会